

社会学専攻（博士後期課程）の3つのポリシー

【教育の理念】

社会学専攻では、社会学と社会福祉学の両分野において、体系的かつ高度な専門的知識と技能を教育するだけでなく、研究者や専門職、リーダーとして必要な幅広い教養と人間性を指導・教育することを目的とする。博士後期課程の教育指導を通じて、自立して創造性にあふれた研究活動を行うことのできる研究者や、広い視野と高度な専門的な知識に裏打ちされた専門職、実践家、実務家を育成し、社会や学問に貢献できる人材の育成を目指す。

この理念と目的を達成するために、社会学と社会福祉学を両輪とした幅広く充実した内容からなるカリキュラムにより、少人数できめ細かな教育・研究指導を行う。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

社会学専攻博士後期課程は、教育の理念と目標に基づいて定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の期間在学し、以下のすべての条件を満たした者に対して、博士（社会学）の学位を授与する。

1. 社会学と社会福祉学のいずれかの分野において、豊かで高度な専門知識と研究技法を修得し、さらに高度な水準の研究を遂行する能力と創造性を身につけている。
2. 専攻の定める所定の単位を修め、かつ、必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出し、その審査および最終試験に合格すること。

（DP1）高度な専門的分野の知識や技能の習得と応用

社会学と社会福祉学の分野における、高度な専門知識や技能を修得するとともに、社会的諸問題に対する深い理解、幅広い視点からの柔軟な思考力、および洞察力、応用力を身につけて、専門分野における先導者として、広く社会に向けて還元していくことができる。

（DP2）研究方法としての情報収集・分析に関する専門的知識および研究遂行能力

自立した研究者、専門家、実践者として活動するために必要な方法論を修得し、継続的な研究を遂行して学問的発展に貢献する研究遂行能力を有すること。あるいは社会や人間に対する有意義な実践を行うために必要な情報収集や分析に関する専門的知識と技能を有し、それらを発展的に用いる継続力と判断力を有すること。

（DP3）コミュニケーション能力

高い専門性と研究倫理を有し、自ら独創的な研究や実践を行い、有意義で新たな価値を創造することができること。自らの研究成果を国内外の学会等に発信するとともに、他者の人権と権利を尊重しつつ、協働して、新たな課題や問題解決に向けて不断に努力することができる専門家の資質を身につけていること。研究に基づいた情報発信、提言や政策、実践へとつなぐことのできる専門的能力と判断力を有し、積極的に社会に還元することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

社会学専攻博士後期課程では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成するため、社会学ならびに社会福祉学の学問分野に関する高度な内容の教育課程を提供する。基本的には博士学位論文の指導を行うことを主眼としており、研究者や教育者の養成を目指している。各専門分野別に指導教員の下で緻密な教育・研究指導を行うため、博士後期課程受験の段階から指導教員を指定するシステムを採っている。修士課程での研究成果を土台として、さらに高度かつ独創的な研究の実施をサポートするために、各専門分野別の特殊研究（講義）と研究指導をセットにして編成する。社会の変化や最新の学術研究の動向を踏まえて、教育内容は更新される必要があることを自覚し、常に自己点検・評価を行い、不断の改善に努める。具体的には、学位論文の審査基準を明確にし、その評価結果をもとに、教育課程や研究指導を改善していく努力を継続する。

TA制度、学術雑誌投稿、関係学会での発表等を通して、研究能力や教育力の向上を目指す指導を行っている。本学を含めた社会学分野の大学院間での単位互換制度に参加し、学生の学習機会を拡大する。すべての教育と指導の過程において、研究倫理を遵守し、人権を尊重することができるよう、カリキュラムの中で意識の啓発と教育を行う。教育内容、教育方法、評価については、下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 指導教員の下で、講義と演習をセットにした、きめの細かな専門的指導を受け、専門的知識と研究能力の発展を目指す。
- 2) 博士論文の作成を目的とした指導を受け、専門的な知識・方法論を学ぶとともに、研究者として自立できるよう、きめ細かな研究指導を受ける。
- 3) 集大成として、博士論文を完成させ、それについての審査と口頭試問を実施する。

2. 教育方法

- 1) 博士論文の執筆を目的としたカリキュラムを組み、指導教員によるきめ細かい研究指導を行う。
- 2) 大学院博士課程受験の段階から研究テーマに合う指導教員を学生が指定して応募することができる。
- 3) 複数の講義科目と演習科目をセットにした指導を行い、研究テーマに沿った綿密な研究指導を展開する。
- 4) 指導教員を中心に、専門性を追求しつつも、研究者や教育者、専門家に必要な、幅広い視野と社会的な貢献や奉仕の精神にもとづいた専門家としての倫理観を有する人材養成を意識した指導を行う。
- 5) 博士論文の提出については、指導教員が進捗状況だけでなく、専攻の定める「提出要件」を満たしていることを確認する。提出された博士論文の審査は、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員会により、「学位論文審査基準」に則り、公正で厳格な審査が行われる。最終試験は、「学位授与の方針」に基づき、必要とされる専門的な学識、研究能力、技能等を身につけていることを詳細に確認し評価する。
- 6) 研究倫理教育は、日本社会学会や日本社会福祉学会等の専門学会での倫理綱領や研究指針に基づいて行われるとともに、研究指導を通じて教員が指導する。
- 7) TA制度への参加を通じて教育現場での指導経験を積み、また各領域の学会誌への論文投稿により研究能

力の向上と研究実績を積むよう指導する。

3. 評価

社会学専攻博士後期課程では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、機関レベル（大学院）、教育課程レベル（人文科学研究科社会学専攻）の2段階のレベルで、学修成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1～3	◎	◎		専門分野の知識および情報収集・調査・分析などの研究活動に必要な知識や調査・分析方法についてさらに深化させる。
研究指導	—	1～3	◎	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員のきめ細かい指導を受け、発表や議論を行い、博士論文の作成につなげる。
博士論文	—	—	◎	◎	◎	学修の集大成として、自ら設定した研究テーマについて、独創的な観点から新たな知見を示す博士論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	◎	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

社会学専攻博士後期課程では、社会学・社会福祉学の高度な専門知識と研究能力を活かして、優れた職業人・教育者・研究者を目指して自己研鑽する意欲のある人材を求める。明確な目的をもって社会的諸問題を解明し、学問分野の発展に寄与する研究活動を行う意欲と熱意のある人を求める。具体的には、自ら問題を発見し、積極的に情報収集して主体的に研究を遂行する能力をもつ人を入学者として受け入れる。

また社会学専攻を希望する受験生を公正かつ適正に選抜するために、多面的・総合的な評価基準を用いて、入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 専門分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力と問題意識を有している。[知識、理解、技能]
- (AP2) 人間や社会についての問題意識と関心をもち、社会学や社会福祉学の専門的知識や技能を生かして学問の発展や社会に貢献しようとする強い意欲と目的意識をもつ。[意欲・関心・態度]
- (AP3) 人間や社会、福祉に関する諸現象について問題意識をもち、主体的に課題を設定し情報を集め、それらを専門的知識に基づいて科学的かつ多面的に考察する柔軟な思考力をもち、さらに新たな解決策を

提案し、情報発信することができる。[思考力・判断力・表現力]

(AP4) 多様性と複雑性を理解し、他者の人権を尊重しつつ協働することができ、また主体的に責任感をもって問題解決やそのための情報発信をする意欲を持つ。[主体性、多様性、協働性]

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類	○	◎	◎		修士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。書類審査、筆記試験、面接試験によって選抜する。筆記試験は記述式で行い、社会学もしくは社会福祉学の専門科目試験と外国語試験の2科目で実施する。面接試験では、専門的知識、研究意欲、研究テーマ内容についての確認を行う。
	筆記試験	◎		◎		
	面接試験	○	◎	◎	◎	
社会人特別入学試験	実施していない					
外国人留学生入学試験	出願書類	○	◎	◎		修士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。書類審査、筆記試験、面接試験によって選抜する。筆記試験は記述式で行い、社会学もしくは社会福祉学の専門科目試験を実施する。面接試験では、専門的知識、研究意欲、研究テーマ内容についての確認を行う。
	筆記試験	◎		◎		
	面接口試	○	◎	◎	◎	